

# 新成人のための 人生とお金の知恵

出発点  
として

## 人生のデザインを 描きましょう！

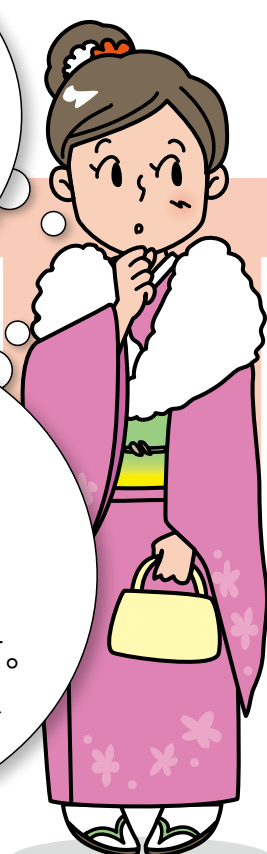
私は学校の  
先生になりたい！

結婚して、  
子どもは2人欲しい！

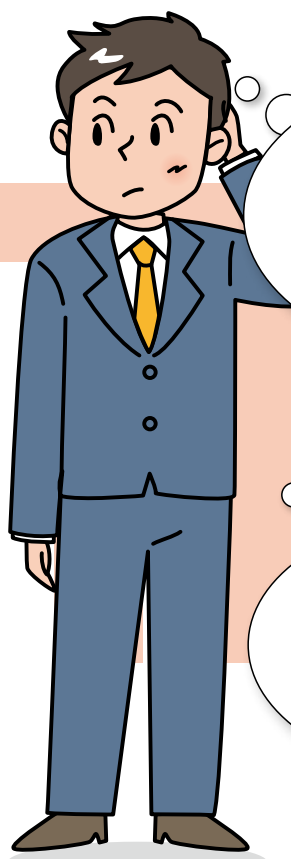
両親の近くで  
くらしたい！

成人するまでに  
私にかかったお金は、  
月10万円としても  
2千万円を超えるわ。

人生の3大費用は  
「教育、住宅、老後」だって。  
これだけでも1億円以上  
かかるらしいよ。



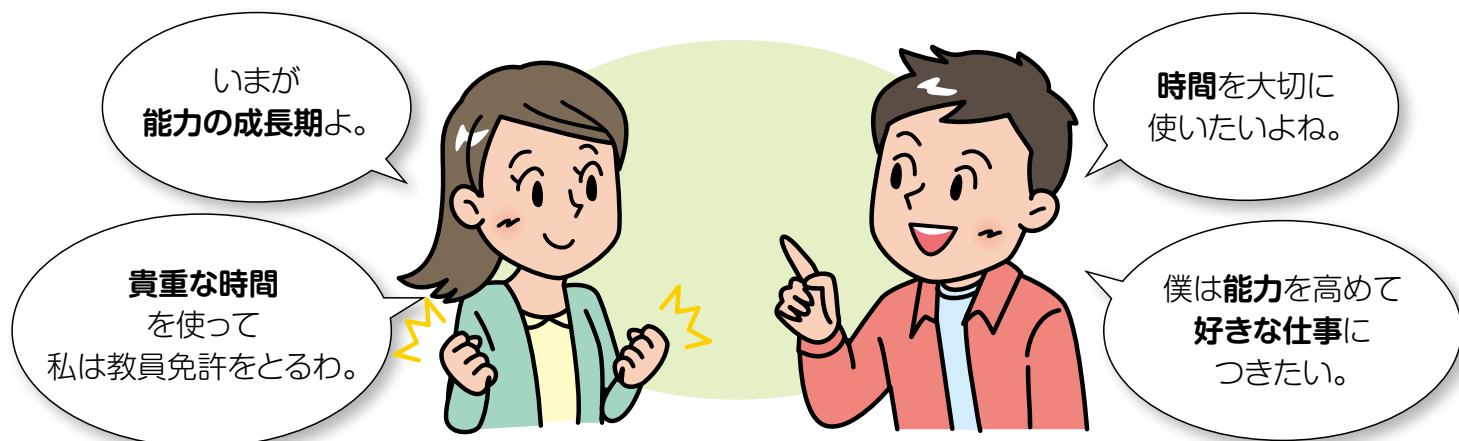
僕はまずは就職かな。  
「人生は30歳までに決まる」  
とよく言われる。  
「30歳までのプラン」を  
作ってみようかな？



色々な夢や希望を  
実現するためには、  
もっとお金が  
かかるんだろうね。

# ① 「支出<収入」 にしましょう！

- 自立するためには、「支出<収入」とすることが必要です。
- 「収入を得る」、「収入を増やす」ことができるよう、働く能力を高めましょう。



- 支出の見直しをしましょう。とくに4つの支出を見直しましょう。

「金利」がかかる支出」・・・クレジットカードの分割払いなど  
「**固定的**な支出」・・・スマホ料金、家賃、車、保険など  
「**特別**な支出」・・・お金のかかる趣味、レジャーなど  
「**習慣**になった支出」・・・たばこ、酒、コーヒー店通いなど

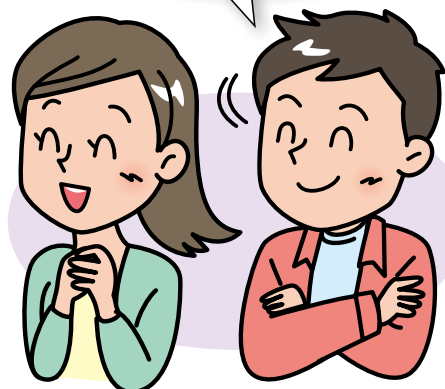
- お金を貯めるためには、「**天引き貯金**」が効果的です！  
給料をもらったら「天引き貯金」を始めましょう。



「最初に差し引いて貯金してしまう」方が、「毎月、余ったお金を貯金する」より貯まりやすいだろうね。

毎月3万円貯めたかったら、銀行に頼んで、3万円を**毎月の手取り収入から最初に差し引いて (=天引き)** 積立口座\*に入れてもらうの。

給料が上がったら天引き額も増やしたい。



\* 給与振込口座に「第二口座」を指定する方法もありますが、「財形一般貯蓄」や「積立定期預金」を利用の方が効果的です。

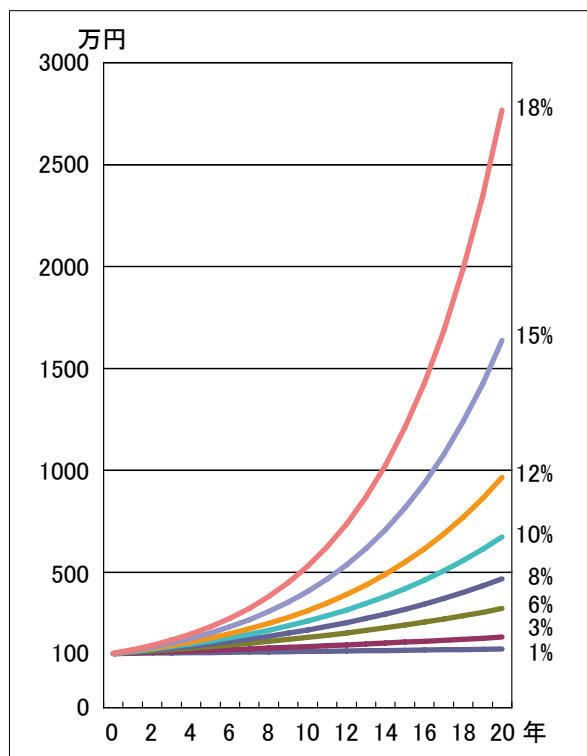
## ②「複利の力」を知りましょう！

- お金には、**利子**（金利）がつきます。「**利子にもまた利子がつく**」ことを「**複利**」といいます。

- ・ 100 万円を年利 3% で銀行に 1 年預けると → 103 万円になる。
- ・ 103 万円を年利 3% でもう 1 年預けると → 106 万円ではなく、106 万 900 円になる。  
（理由）1 年目の利子 3 万円にも 2 年目に 3% の金利がつき、これが 900 円になる。

- **金利が高い**ほど、また**期間が長い**ほど、「**複利の力**」が大きく働きます。

### 複利の力



金利 1% ~ 18%

- ・ お金を「**運用する**」ときだけでなく、「**借りる**」ときも複利によって金額が増えることに注意！



- お金を**運用する**とき、**借りる**とき、「**複利の力**」を**意識**しましょう。

### 「72 の法則」を使いましょう！

- ・ **お金が 2 倍になる年数、がすぐにわかる便利な算式**です。
- ・ 「 $72 \div \text{金利}$ 」を計算すれば、元のお金が 2 倍になる年数が出てきます（概算です）。

$$72 \div \text{金利} \div \text{お金が 2 倍になる年数}$$

\*ここでの「金利」は複利です（1年ごとに利子にも利子がつく、と想定）

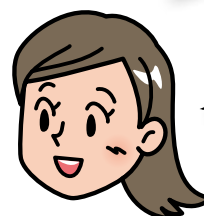
金利**3%**でお金を運用できたら、  
「 $72 \div 3 = 24$ 」だから  
24年で2倍にできる。  
金利**18%**でお金を借りたら、  
「 $72 \div 18 = 4$ 」だから  
4年で2倍になってしまう。



### ③「お金を増やしたい」とき

- ①「仕事からの収入を増やす」のが一番です。
- ②「天引き貯金」は、お金が貯まりやすい方法です（前述）。  
収入が増えたら、「天引き額」も増やしましょう。

(例) 手取り収入が25万円 → 天引き額 5万円  
↑ ↑  
手取り収入が20万円 → 天引き額 3万円



若者は、働いて  
お金を稼ぐのが  
基本でしょ。

頑張って働けば  
収入が増える。  
貯金も増える。

- ③ お金の運用は、**余裕資金**を作ったうえで！

- 生活費の最低3か月分(失業への備え)、できれば1年以上を貯め、**心の余裕**を確保しましょう。そのうえで、お金の価値を「**守る**」こと(インフレが進むと預金の価値は通常低下します)、将来の夢の実現や老後に備えてお金を「**増やす**」ことも考えていきましょう。

- ④「安全で、収益性の高い金融商品」は、**ありません!!**

預金 「安全性」高い「収益性」低い



株式 「安全性」低い「収益性」高い

- 「安全性」と「収益性」が、ともに高い金融商品は存在しません。
- 「安全で、収益性の高い金融商品」は、**投資詐欺**でよく使われる誘い文句です。

「世の中に、うまい話はない!」ってことね。  
だまされないようにしましょう。



- ⑤「**長期・分散・積立**」投資を**低コスト**で行う、という運用方法を知りましょう。

#### 「長期」

- 長期間**、運用するほど、「**複利の力**」が大きく働きます（左頁のグラフ）。
- 短期間で大きく増やそうとして（例：半年で5割、1年で2倍）、投機的な取引をすると、大きなリスクをとることになり、せっかく貯めたお金が大きく減ってしまう可能性も高まります。
- とくに老後資金は、長期的な視野に立ち、時間をかけて増やしていく、という姿勢が大切です。**「72の法則」**を使って、お金の長期的な増え方を計算してみましょう。
  - ー年平均**3%**で増やせれば、24年で約2倍、**48年**で約**4倍**です。
  - ーもし年平均**6%**で増やせれば、12年で約2倍、24年で約4倍、**36年**で約**8倍**、**48年**で約**16倍**です<sup>1</sup>。

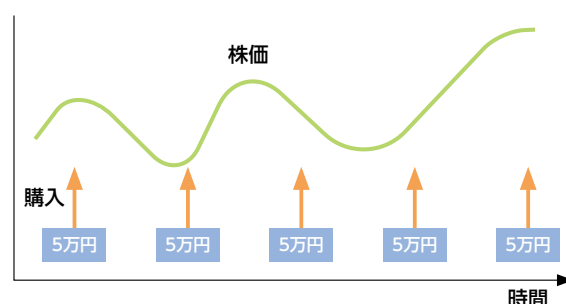
1 金融広報中央委員会『これであなたもひとり立ち』指導書の「ワーク12 人生にかかるお金、資産形成の視点」には、参考資料として**長期的な株価の動き**（日本70年、米国200年）も掲載しています。

## 「分散」

- **分散**は、有効な方法です。たとえば、**預金**（安全性が高く、収益性は低い）と**株式**（安全性が低く、収益性は高い）にお金を分散し、その割合を調整すれば、「**安全性**」と「**収益性**」のバランスを取り、自分の希望に合ったものにできます。
- **海外**の債券や株式に分散するのも有効です（公的年金の積立金の運用でも、そうしています）。
- **株式**で運用する部分についても、保有銘柄を増やしていく（1 → 5 → 10 銘柄など）ことにより、**リスク**が低減します（価格の動きが打ち消し合うためです）。なお、老後資金形成のために「**長期（30 ～ 50 年）・分散**」運用する場合には、個別企業の株式よりも、株価全体（株価指数）に連動する**インデックスファンド**<sup>2</sup>を利用して国際分散投資するのが一般的です。

## 「積立」（定額投資）

- **積立投資**とは、給与から毎月一定額を投資していく方法などのことです。
- 給与からの**天引き**で積み立てると効果的です。
- 定期的に定額を投資すれば、株価が高いときには少なめ、安いときには多めの数量を買うことになり、平均購入価格が下がりがやすくなります。
- 積立投資をコツコツと長期間続ければ、短期的な相場変動の影響を軽減するかたちで資産形成を行えます。長期的に価格が上昇していく優良な資産を選ぶことが大切です。



## ⑥ 資産形成を支援する **国の税優遇制度**を知りましょう。

	つみたてNISA(ニーサ) <sup>3</sup>	iDeCo(イデコ)
税の優遇	運用益が非課税になる	運用益が非課税になる 毎年の <b>所得税</b> や <b>住民税</b> が少なくなる 受取時に支払う税金が少なくなる
対象層	<b>18歳</b> 以上（2023年1月以降） <sup>4</sup>	<b>20歳</b> 以上、65歳になるまで
年間上限額	40万円（累計上限額800万円）	14.4～81.6万円（働き方による）
主な商品	株式投資信託 ETF ( <b>コストが安いインデックス型が中心</b> )	投資信託 保険商品 定期預金など
買い方	定期的・継続的に買う（積み立て）	年1回以上（毎月、年1回、年2回など）、買う
受け取り	<b>自由に引き出せる</b>	<b>60歳以降</b> に、受け取り開始する

- つみたてNISA、iDeCoともに、「**長期・分散・積立**」投資に向くしくみです。**低コスト**での投資も可能です（**税の優遇、各種手数料が安い等**）。
- iDeCoは、**老後資金**の形成に向きます。60歳までは引き出せません。
- つみたてNISAは、自由に引き出せます。老後資金のほか、子の教育資金などにも向きます。

2 **インデックスファンド**には、**日本**の株価（日経平均、東証株価指数）、**米国**の株価（S&P500ほか）、**世界**の株価に連動するものなどがあります。**国際分散投資**には、これらを利用するのが一般的です（**つみたてNISA**や**iDeCo**でも利用できます）。

3 **一般NISA**もあり、個別株式等にも投資できます（年間上限額120万円、累計上限額600万円）。つみたてNISAと同時使用できません。つみたてNISAに近づける方向での制度変更が議論されています（2022年9月時点）。

4 口座開設をする年の「1月1日」時点で、18歳以上である必要があります。



## ④「お金を借りる」前に

- ① 返せるかどうか、よく考えましょう。
- ② クレジットカードや消費者金融の金利は**高い**と知りました。

・クレジットカード・・・カードを使うことは、お金を借りることです。

### ▼金利の例

1回払い・・・なし

分割払い(12回)・・・年15%  
リボ払い\*・・・・年15%  
キャッシング・・・・年18%

\*毎月「一定額」を支払う方式など



・消費者金融・・・無担保・小口・短期・緊急の資金ニーズに柔軟に応じます。  
その分、金利は高くなっています(年18%など。下表の上限金利で貸すのが通例です)。

(注意)若者に、消費者金融で強引に借金させて、マルチ商法や投資・副業関係の商品・サービス(投資ソフト、副業講座等)を買わせる手口が頻発しています。「借りればよい」と言われても、断りましょう!

- ③ **お金を返せない場合、どうなるか知りました(奨学金を含む)。**

・返済期限が来ているのにお金を返せない状態(延滞)が2～3か月以上続くと  
⇒個人情報情報機関に延滞情報が登録され、クレジットカードや住宅ローンなどを利用できなくなります。延滞金利も発生します。**奨学金の返済、スマホ本体代金の分割払いの延滞でも同じです。**

- ④ 金利には**上限**があります。

100万円以上	年15%
10万円以上100万円未満	年18%
10万円未満	年20%



これを超える  
金利は違法。  
払う必要がないのよ。

(注意)**「ヤミ金融」**・・・「10日で1割(トイチ)」、「10日で5割(トゴ)」などの金利で貸します(年利では365%、1825%)。これは**犯罪**です。暴力的な取り立ても行われ、家族などにも被害が及びます。ヤミ金融には決して近づくべきではありません!

- ⑤「自己破産」についても知っておきましょう。

・どうしても借金を返せないときは⇒思い詰めた行動(自殺、犯罪など)に走ってはいけません。裁判所に申し立てれば、**破産**が宣告され、通常は**借金がなくなります(免責)**。これを**自己破産**といい、**個人を再出発させるためのしくみ**です。  
・自己破産すると、正規の業者から借りることはできなくなります。収入の範囲内に支出を抑える(「支出<収入」の原則に戻る)ことが必要となります。

# ⑤ リスクを管理しましょう！

## ① 人生のリスクを知り、管理していきましょう (2タイプのリスクがあり、対応も異なります)。

損失だけが発生させるリスク*	⇔	チャンスと一体のリスク**
けが 病気 死亡 事故 火災 自然災害 犯罪被害など		受験 就職 恋愛・結婚 出産 起業 住宅購入 資産運用など
損失を回避すること、予防・軽減することをまず考えましょう。 損失に備え、 <b>貯蓄</b> をしましょう。 必要に応じ、 <b>保険</b> に入りましょう。		自分の <b>夢</b> や <b>希望</b> をかなえるためには避けて通れません。しっかりと準備をして臨みましょう。 もし失敗した場合にダメージをどうコントロールするかも予め考えておきましょう。

\* 下方リスクとも呼ばれます

\*\* 上方・下方の両方向があるリスク



## ② 貯蓄と保険の特徴を知り、うまく使い分けましょう。

貯蓄	⇔	保険
何にでも使える 大きな損失はなかなかカバーできない		大きな損失もカバーできる(自動車事故など) 保険に入った損失にしか使えない



⇒ (例)・小さな損失には貯蓄で備え、大きな損失には保険で備える。

・子ができたら生命保険に入り、子が成長し、貯蓄も増えてくれば、保険を見直す。

## ③ 社会保険(政府が運営する公的な保険)について知りましょう。

社会保険には、年金保険、医療保険、労災保険、雇用保険等があり、“**国民皆年金(皆保険)**”です。

⇒民間保険に入る前に、まず**社会保険**でカバーされる内容を知りましょう。

社会保険、貯蓄などでカバーできない損失は？ ➡ 必要な範囲で、**民間保険**に入りましょう。

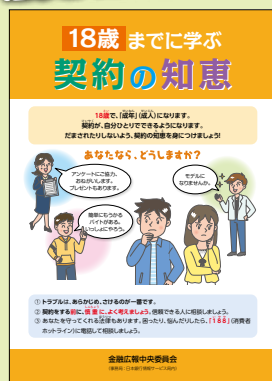
(例) 医療費の自己負担は原則 3 割。さらにひと月の自己負担に上限があります。

(例) 自動車事故の対人賠償額は、強制加入の自賠責保険だけでは通常足りません。

20 歳以上の人は、**国民年金**の保険料を納める義務があります。ただし、**学生**や、**20 歳から 50 歳未満の人**には、納付を猶予(先送り)してもらえる制度があります(所得が一定額以下の場合)。猶予中でも、けがや病気により障害が残れば、年金(障害基礎年金)を受けることができます。猶予してもらうためには、必ず申請する必要があります。

## もっと学びたいとき ~ 目的に応じてご利用ください

### 悪質商法対策に！



ひとり立ちに必要な知識を幅広く学べる！  
「人生にかかるお金、資産形成の視点」の  
ワークと指導書(解説)はとくにオススメ。



ワーク



指導書



大学の「金融リテラシー」の  
授業の副教材。解説が詳しい！



1回10～15分  
無料の  
eラーニング

わかりやすいお金の講座



人生を豊かにするお金の知恵

## 「お金」の勉強、始めませんか？ ～ 金融リテラシーのエッセンスを凝縮 ～

### 講座の特徴

- ✓ 金融経済教育に関わる**官庁と団体が連携**して作成した動画教材
- ✓ 中立公正な観点から**金融リテラシーに関する基本的な内容**を網羅
- ✓ 1回の**講義は10～15分程度**とコンパクト、しかも**わかりやすい**
- ✓ **スマホ・タブレット**で、外出先やスキマ時間にも学びやすい
- ✓ “gacco”\*で登録すれば、**誰でも、無料で受講可能**

\*大学レベルの講義を誰でも無料で受けられるウェブサービスです。

詳しくはこちら



分野	テーマ	講師担当団体
金融と経済を学ぶ	あなたの夢の実現と持続可能な社会の形成に向けて ～なぜ金融リテラシーが必要か？	金融庁
	キャッシュレス決済	金融広報中央委員会
	金利と経済	
	金利の基礎	
ライフプランを描く	生活設計 ～個人で考えよう、家族で話そう将来設計	日本FP協会
	家計管理 ～夢の実現に向けお金の管理方法を学ぼう	
お金を借りる	ローンの基礎	全国銀行協会
	クレジットカード	
	住宅ローン	日本学生支援機構
	奨学金	
お金を増やす	資産運用 ～始める前に	日本証券業協会 東京証券取引所 投資信託協会
	投資リスクの管理（リスクの軽減）	
	NISA・確定拠出年金	
リスクに備える	生命保険	生命保険文化センター
	損害保険	日本損害保険協会
トラブルを避ける	消費者トラブルに遭わないために ～契約の基礎と最近の消費者トラブル事例	消費者庁 (協力：国民生活センター)